推 薦 図 書

学　科：　文学部　英語学科	氏　名：　上野 葉子
書　名：　ビラヴド	
著者・訳者：　トニ・モリスン著　吉田廸子訳	
出　版　：　集英社　1998	

〈推　薦　文〉

トニ・モリスンは、1993年にノーベル文学賞を受賞したアフリカ系アメリカ人の女性作家で、世界的に高い評価を受けています。

『ビラヴド』のヒロインである逃亡奴隷のセスは、娘には奴隷としての屈辱的な体験をさせることはできないと考え、幼い娘を自らの手で殺してしまいます。やがて、娘は幽霊となって戻ってきてセスの愛情を強く求め、セスを死へと引き入れようとします。子どもを殺さざるを得なかったセスの深い苦悩をとおして、奴隷制を保有する社会がどれほど人間を傷つけるものなのかが感じられます。自らの苦しみを伝えないまま死んでいった多くのアフリカ系アメリカ人の人々の声がフィクションという形で再現され、人類が忘れてはならない記憶として私たちに訴えかけているように思います。

そのような深いテーマを持つ物語ではありますが、ゴーストストーリーの枠組みを使ってスリリングに、そして不思議なリアルさを伴って話が展開していき、時に詩的なイメージが想像を膨らませてくれるのが魅力です。